

名 称	由布市湯布院町青少年ボランティアサポートセンター
所 在 地	〒879-5102 大分県由布市湯布院町川上3758-1
連 絡 先	TEL : 0977-84-2604      FAX : 0979-84-2603 URL: <a href="http://www.city.yufu.oita.jp/">http://www.city.yufu.oita.jp/</a>

## 地域の現況・特色

活動対象人口 由布市湯布院町 約11,500人

湯布院町は、大分県の中山間部に位置し、年間400万人の観光客で賑わう温泉町である。子どもたちの生きる力をはぐくみ、奉仕活動や体験活動を支援していく体制整備などの必要から、湯布院町でも、子どもたちを支援する成人の登録「人材バンク」の整備、運用体制から、平成14年に、奉仕活動・体験活動を支援する「湯布院町青少年ボランティアサポートセンター」を設立した。当初はボランティア活動希望者や体験活動指導者の登録管理、活動の受け入れ先の登録や、子どもたちへの体験活動の場の提供、ボランティア活動の情報紙を作成した。その情報誌は子どもたちがたくさんの人と出逢い・まなび合い・愛情豊かに育つことを願い「ゆふいん子ども逢・合・愛だより」とし、年間4回発行。その中で17年度は文部科学省「地域教育力再生プラン」における委託事業を受け、由布市湯布院町地域教育力再生推進協議会を設置し、「地域子ども教室推進事業」を展開した。

## コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「地域子ども教室推進事業」

湯布院町内4小学校区のうち、3校区において、体験的教室、自然体験学習、ボランティア体験、昔のあそびなど、地域の老人クラブや大人が支援し、地域に根ざした活動を展開した。ゆふっ子体験は湯布院公民館で、七夕笹飾り・ゴムとびあそび・水鉄砲づくり・紙すきとうちわ作り・盆踊り体験・本の読み聞かせ・夏休み宿題お助け隊・ペープサートを作って老人ホーム慰問・由布岳登山体験・紙粘土づくり・牧場での乳搾り体験・雑巾縫い体験・立命館アジア太平洋大学（APU）大学生や子ども神楽社とのジョイント体験・バドミントン体験・卓球体験・郷土料理（やせうま）づくり・クリスマスケーキづくり・門松づくり・あぶり絵体験・木工あそび・ごみ拾いなどを、小学校が早く終る水曜日に由布院小学校児童生徒を対象に年間70回実施した。ゆふっ子塚原教室は塚原幼稚園舎で、音をテーマにボディパーカッション体験・言葉を音にのせてみる体験などを、塚原小学校1年生～6年生と幼稚園児を対象に実施した。川西わくわく教室は川西地区公民館で、かぶと虫育て・フリスビードッ

ち体験・プールあそび・サマーキャンプ・お手玉づくり・風車づくり・月見だんごづくり・グラウンドゴルフ体験・ケーキづくり・スポーツチャンバラ体験・やきいもづくりなどを、月1回川西公民館の子ども教室と合わせて水曜日に、川西小学校4年生～6年生を対象に実施した。

また、学校とPTAと地域が連携し、「ゆふっこまつり」において、地域のボランティアが、ガーデニング・筆ペン画・源流太鼓・お手玉・ニュースポーツ・とび縄・アフロパーカッション・藍染しぼり・郷土料理・ゆび編み・布ぞうり・ロープワーク・リース作り・折り紙・草木染め・こびりづくり・サルベージゲーム・あやとり・竹とんぼ・陶芸・護身術・竹笛などを指導して、親子の様々な活動体験を小学校や公民館の会場を使って実施した。

体験活動内容としては…

ボランティアサポートセンターに登録の大人にゆふっ子体験教室・塚原教室・川西わくわく教室の講師派遣要請がくるようになると、ボランティア登録者を派遣する機会が増え、活動の場が広がり活性化するきっかけにつながった。一方で体験教室側も、いままでは講師探しに苦労することが多かったが、センターに依頼するようになると、スムーズに教室の計画をたてられ、実施することが容易となった。子どもたちは各地域の教室において、様々な体験活動を通して、自分の好きなものを発見したり、友達が広がったり、指導の大人と知り合いになることで、声かけや見守りにつながっている。また、特別な技術はないが子どものために何か役に立てたらと登録して、子どもたちの見守りボランティアとして積極的に参加してくれる大人もいる。年間400万人もの観光客が訪れるこの町にポイ捨てごみが散乱していることに注目した高校生たちが故郷をきれいにしたいという思いから環境美化活動を企画した。これが今では年4回（春夏秋冬）私たちの町クリーン大作戦として大人と子どもとの交流体験活動へとつながった。この活動が大分県のごみゼロ推進隊にも加わり広がっている。学校とPTA・地域が連携した「ゆふっこまつり」では由布院小学校の全校生徒と保護者777人が、地域のボランティア100数人を講師に、由布院小学校の教室や湯布院公民館の会場を使い、希望する教室に入り、親子で体験をしていった。日頃はとても賑やかで騒々しいほどの教室だが、自分たちのやりたいことに集中するためか、大勢がいるとは思えないほどの静かな中にも笑顔が絶えない半日であった。指導についての大人は「学校に来ることによってなんだかわくわくするのと、子どもと接することで元気をもらえる」、また子どもや保護者は「いろんなことを学べて嬉しい」との感想があった。

## コーディネートの実際

- i. (a) 湯布院町地域教育力再生推進協議会子ども教室推進事業のゆふっ子体験教室から青少年ボランティアサポートセンターに対して、教室指導の派遣依頼、相談があった。青少年ボランティアサポートセンターでは、ちょうどボランティアに登録の大人の活動の場を探していたところだったので、ゆふっ子体験教室の講師派遣ができてよかったと思う。ゆふっ子たちには、様々な体験をさせることで自分のやりたいことに気付かせていく目的と、大人のボランティアの活動の場を広げる目的の両方

をつなげるようにコーディネートすることができた。

(b) 由布院小学校とPTAが、学校を開放した地域の人との交流の、「ゆふっ子まつり」を企画し、青少年ボランティアサポートセンターの登録ボランティアを派遣してほしいとの要請があった。センターでは登録ボランティアの活動の場が広がるのと、地域の子どもたちを地域の大人が知ることができ、見守りにつながると考え、地域ボランティアを講師として派遣した。

ii. 「子どもたちの体験活動推進事業」のゆふっ子体験教室や由布院小学校との地域ボランティア活動支援は、地域や学校のニーズによりコーディネートしている。その他、ボランティアの登録・ボランティア人材バンクの管理・ボランティアの活動場所紹介・受け入れ先の依頼相談の受付・子どもたちの安全な居場所の確保・体験学習や地域活動に関する情報発信収集・ボランティア活動の支援・子どもたちの体験活動の推進などを子ども教室推進事業と連携して行っている。活動の様子などは、情報紙「こども逢・合・愛だより」で、年4回、町内の小中学校や各地域に配布して知らせている。

iii. 青少年ボランティアセンターの活動は、以下のように様々なボランティアを派遣して、活動を展開した。

- ・子ども居場所事業・・・湯布院公民館ゆふっ子体験教室・川西地区公民館川西わくわく教室・塚原幼稚園舎ゆふっ子塚原教室（63回、267人）
- ・学校支援・・・由布院幼稚園育児ボランティア・湯布院中学校総合学習平和授業支援・由布院小学校PTA昔のあそび支援・由布院小学校総合学習支援・由布院小学校ゆふっ子まつり支援・湯平小学校サマーキャンプ支援・川西小学校総合学習支援・ガールスカウト九州大会支援・別府大学附属小学校湯布院ゆふの丘野草調べ支援・熊本大学社会教育主事研修郷土料理指導・放課後児童クラブ支援（15回、909人）
- ・地域支援・・・ウォークラリー支援・ゆふいん子ども面食い絶叫大会支援・子ども会相撲大会支援・新町子ども会支援・盆地まつり盆おどり参加・子ども会野球大会支援・荒木自治区親子料理教室支援・ゆふの丘プラザ手話講座育児支援・ゆふいん子ども音楽祭支援・子ども会駅伝大会支援（10回、51人）
- ・奉仕活動・・・私たちの町クリーン大作戦（年4回、240人）

iv. その結果、コーディネーターとしてはボランティアをしたい人の活動の場を広げたいがボランティアしてほしい団体がまだ少ないため、両方の要望に答えられないことに苦慮した。青少年のボランティア活動を支援するセンターとして、活動する青少年を集めることがなかなかできないこと、中高生の本業である学校の学業と、ボランティア活動そして部活などの時間、高校のない湯布院町としては、その時間がすぐにできないことが集めにくい原因の一つのような気がしている。

v. 活動を情報紙で紹介したり、市報に載せてもらうことで、サポートセンターが町内に知られてきつつある。子どもの居場所事業や学校支援・地域支援に、地域の大人や中高生も少数ながら加わり、ボランティア活動につながっている。この子どもから大人が共に交流する活動なので、お互いが知り合いとなり地域の子どもの見守りにつながっている。

vi. 今後の課題は、ボランティアをした数の把握がすべてできないことである。たいていはサポートセンターを通してしているが、一度紹介すると、センターを通さずに、直接ボランティアに交渉するため、実態がわからない点もあった。今後は登録ボランティアさんが安全に活動してもらうためにも、またボランティア数の把握のためにも、登録した時にセンタ

一への報告をお願いしていきたいと思っている。

- vii. ささやかながらも、湯布院青少年ボランティアサポートセンターは、「地域の子は地域のみんなで守る」ことを目標に地域の大人と子どもたちをつなげ、安全安心の地域づくりを支援していくセンターになりたい。平成18年度はさらに、ボランティアをしたい人の活動の場を広げることと、ボランティアをしてほしい地域子ども会と、ボランティアしたい大人をつなげて子ども会活動を活発にすれば地域が元気になり、地域が元気になれば、町が元気になるので、地域にどっしりと腰をすえて、地域の人たちと手を携えて、活動を展開していきたい。



地域支援（子ども面食い絶叫大会）



ゆふっ子体験教室（川の生物調査・川遊び）



ゆふっ子体験教室（特養老人ホーム訪問）



ゆふっ子体験教室（ぞうきん縫い）



ゆふっ子体験教室（門松づくり）

執筆者職・氏名：由布市教育委員会  
由布市湯布院町青少年ボランティアサポートセンター  
コーディネーター 梅尾 矢代畏